

**県内外の選手らが熱戦**  
松前町ひまわり杯(水口杯) ダブルス卓球大会

「第9回松前町ひまわり杯(水口杯) ダブルス卓球大会」は2月4日、松前公園で開かれ、208人52チームが参加しました。試合の合間には、全国で活躍する時吉佑一選手のミニ講習会も行われるなど大盛り上がり。予選リーグの順位ごとに行われた、トーナメントの結果は次の通りです(敬称略)。



- ▶1位グループ①グレーホース (光田知人、西田貴、山地諒、山地理沙) ②アイノスZ(松末昂大、越智佳月、田村奈央、安平春香)
- ▶2位グループ①タカスポーツ B(尾崎博幸、三好崇司、松本忍、高田捺都) ②ピオラ 星(青森将剛、高橋佑介、深谷智佳子、越智慶子)
- ▶3位グループ①TAKUTO-A(岡村啓之、森藤一博、雪野典子、大谷絵里子) ②パル(黒佐明洋、永井都、山藤由紀美、岩崎やよい)
- ▶4位グループ①ミッチ(中村慶一、戎晃史、細川美知恵、高市恵) ②みどり(竹田省二、赤松和紀、竹田朱美、大場順子)



**地震に強い建物ってどんな構造?**  
松小放課後児童クラブ「ストローハウス作り」

2月19日、松前小学校放課後児童クラブで、ストローハウス作りが行われ、同クラブを利用している児童69人が参加しました。南海トラフ巨大地震のことなどを勉強した後、松前町建築協議会のメンバーと一緒に、ストローやクリップを使ってストローハウスを作った児童たち。地震に強い建物にするために、柱の間などに斜めに交差して取り付ける筋交いの大切さを学んでいました。



**息の合ったペアプレーで白熱**  
第43回松前町バドミントン大会

- 「第43回松前町バドミントン大会」は1月28日、松前小学校で開催されました。大会結果は、次の通りです(敬称略)。
- ▶一般男子
    - ①大原俊行・松本 大
    - ②和田悠介・ト部雄多
  - ▶一般女子1部
    - ①西川 綾・房崎壘衣
    - ②宮内 彩・宮内芽衣
  - ▶一般女子2部
    - ①白石楓香・石井心笑
    - ②窪田莉里羽・窪田菜菜呂

**町内の事業所に感謝状**  
交通安全啓発ラッピングトラック制作

伊予警察署は2月15日、交通安全啓発活動を行うラッピングトラックの制作に協力したため、有限会社大野ヶ原物流(森池浩一代表取締役)に感謝状を贈呈しました。みきゃんなどがデザインされたトラックには、「横断歩道は歩行者優先」、もう片方には「横断歩道 手を上げて渡ろう」と運転手と歩行者へのメッセージが書かれています。今後、同事業所はこのトラックで中予地域を中心に配送業務をしながら、横断歩道での歩行者保護をPRする予定です。



(写真左から)有限会社大野ヶ原物流 森池真一専務取締役、伊予警察署 日高健署長

**子どもたちへ「野球しようぜ！」**  
大谷翔平選手クラブ寄贈

1月18日、メジャーリーガーの大谷翔平選手から寄贈されたクラブが、町内の小学校に届きました。届いたのは、大谷選手のサインが入った右利き用二つと左利き用一つのクラブと、「野球しようぜ！」と書かれたメッセージカード。ソフトボールをしている松前小6年生の福田冨親さんは、「キャッチボールするのが楽しみ。練習を頑張って大谷選手みたいにホームランをいっぱい打ちたい」とほほ笑んでいました。



**地域社会の発展を目指して**  
第一生命保険株式会社との包括連携協定

松前町と第一生命保険株式会社(沼崎貴則松山支社長)は1月31日、「包括連携協定」を締結しました。この協定は、活力ある個性豊かな地域社会の発展と町民サービスのより一層の向上を図るために締結されたもの。今後は、互いに連携し、健康づくりやまちの魅力発信などの地域課題に迅速かつ適切に対応していきます。



**はだか麦の魅力を発信**  
伊予高「はだか麦知名度UPプロジェクト」

伊予高等学校の生徒16人は2月18日、エミフルMASAKIではだか麦を使ったレシピの調理実演、試食会を行いました。このイベントは、「はだか麦知名度UPプロジェクト」と題して、伊予高生が昨年度から行っている取り組みの一環で開催されたもの。この日は、伊予高生が考案した町の特産品のはだか麦を使ったレシピを基にして、フードディレクターのパパイズムさんが調理を担当、伊予高生が試食会を担当しました。提供されたメニューは、はだか麦が入ったオムレツ、ミネストローネなど4種類。料理を食べた来場者は、口々に「はだか麦がモチモチしていておいしい」と話し、はだか麦の魅力を感じていました。伊予高等学校2年生の山本悠瑞希さんは、「はだか麦を県外にPRするならエミフルしかないと思った。料理が好評でとてもうれしい」とほほ笑んでいました。



④パパイズムさんによる調理実演  
⑤試食を勧める伊予高生  
⑥1月26日には、町内の学校の給食にも登場。伊予高生考案「麦ちゃんのホワイトカレー」

人権問題で悩んでいませんか  
人権擁護委員委嘱

1月1日付で、法務大臣から次の4人が人権擁護委員に委嘱されました。

人権擁護委員は、原則毎月1回、文化センターで皆さんの身の回りの人権に関する相談に応じています。相談は無料で秘密は厳守します。

詳しくは、毎月の広報のお役立ちカレンダーをご覧ください。



おふくろの味を懐かしむ  
松前校区婦人会「恵方巻き作り」

松前校区婦人会は2月2日、西公民館で恵方巻きを作りました。買って食べるが多くなった恵方巻きを昔のように作って、みんなで食べようと企画された初めての試み。約30人が参加し、ニンジンやシイタケなど7種類の具材を入れて、完成したものをみんなで食べました。

会長の鳥越英子さん=新立=は、「昔を懐かしみながら、みんなで和気あいあいと作れてよかった」と話していました。

- ④手分けして具材の準備
- ⑤具材が真ん中になるよう慎重に



子育て支援に役立てて  
企業版ふるさと納税による寄付

町内にメガソーラー発電所を持つジャパン・リニューアブル・エナジー(株)は1月31日、子育て支援などに役立ててほしいと、企業版ふるさと納税による寄付金を町に贈呈しました。

いただいたご厚意は、大切に活用させていただきます。ありがとうございました。

篠永さんに愛媛県教育長賞  
"社会を明るくする運動"作文コンテスト

法務省主催の第73回"社会を明るくする運動"作文コンテストで、松前中学校2年生の篠永多希さんが愛媛県教育長賞を受賞しました。

このコンテストは、犯罪や非行の防止などを目的として開催されました。篠永さんは、「人を外見で判断せず、周りに目を向けて、友達の心の変化に気付くことができるようになりたい」と訴えました。



元気が出るまちづくりを目指して  
松前町公民館研究大会・生涯学習推進大会

「第45回松前町公民館研究大会・令和5年度松前町生涯学習推進大会」は2月4日、文化センターで開かれ、約220人の参加者が公民館活動の充実のため理解を深めました。

シンポジウムでは、愛媛大学教育学部准教授の井上昌善さんをコーディネーターに迎え、元気が出るまちづくりについて2分館が事例を発表しました。

大間分館は、「『地域の歴史と伝統』を生かした分館活動」をテーマに報告。郷田智成分館長は、「分館活動を将来にわたリしっかりと受け継いでいくため、行事の価値をさらに高めることを考えていきたい」と話していました。

神崎分館は、「コロナ禍の3年を乗り越えて」をテーマに報告。山本祐三分館長は、「安心・安全で生活しやすい地域づくりを達成するため、伝統行事に加えて住民のニーズを取り入れた新たな行事の提案や内容などの見直しが必要」と話していました。

記念講演では、トレーナーズスクエア(株)代表取締役社長の岩崎由純さんが、「他人や自分の心を状況や場面に応じて最適化するため、聞いた人をやる気にさせる魔法の言葉を選んで発することが大切」と訴えました。



▶公民館活動功労者表彰 (分館役員5年以上) 弓達富美子(出作)、山本祐三(神崎)、小笠原威(神崎)、相原正志(鶴吉)、仲矢國和(大溝)、稲垣良夫(東古泉)、早瀬武臣(東古泉)、富田徹(北黒田)、加藤晴美(新立)、伊賀上典久(大間)、山本正司(恵久美)、茂川俊英(北川原)(敬称略)



みんなで鬼さんをやっつけろ  
松前ひまわり保育所「豆まき」

「節分の日」に合わせて2月2日、松前ひまわり保育所で豆まきが行われました。これは、邪気や魔物を追い払い、新しい年に幸運を招くとされる行事です。

まず、集会で節分の由来のお話を聞いて、鬼の嫌いな物などのクイズを楽しんだ子どもたち。「豆まき」の歌を元気いっぱい歌った後は、いよいよ鬼退治です。園庭に現れた鬼に向かって、「鬼は外ー! 福は内ー!」と新聞紙を丸めて作った玉を思い切り投げっていました。

当日の給食には、おなじみの「鬼面ライス」が登場。ケチャップで色を付けたご飯に、ちくわ、イチゴやブロッコリーなどで思い思いの鬼の顔を作り、互いに見せ合って楽しみながら、みんな残さず食べていました。

- ④「鬼は外ー!」カ いっぱい投げる
- ⑤勇気を出して鬼さんとタッチ
- ⑥「鬼面ライス」かわいい鬼さんが完成